

2021 年度「自立援助ホーム支援助成」事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人とりで

代表者・役職名 氏名 理事長 金本秀韓

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 申請事業の名称

入居中の子ども達が老朽化した家屋で安心できる環境整備

2. 自立援助ホームの概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2016 年 3 月に当法人を設立。社会的養護を必要とする子どもたち、また地域の家庭に対して、相談、支援を行い児童家庭福祉、ならびに地域福祉の増進に寄与することを目的として、自立援助ホームそなえを 2016 年 4 月に開所しました。正会員 28 名 賛助会員 15 名 (2021/6/1 時点)

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

特定の他者との愛着関係、信頼関係の構築が乏しい・難しい子ども達にとっては社会自立に向けた訓練や経験が重要であり、親との関係性が希薄・深刻な状況にある子ども達にとってはこれに代わりうる、あるいは近い大人の存在が心理的自立を目指すうえで必要であると考えます。ホームに入居する子ども達は虐待等が理由で心身共に傷ついた状態です。傷の回復は日々のケアワーカーとの良好な関係性と安心安全な生活環境の両輪があって達成が期待でき、本事業は、この安心安全な生活環境の確保のために非常に意義のあるものだと考えます。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

2 階建ての当ホームは全体的に老朽化が進んでおり、改修を行いながら安心に過ごせる環境を整えています。今回の改修対象となったのは、子ども 2 人が就寝したり日中過ごしたりしている 1 階の居室です。この居室の床の老朽化が進み、凹みや軋みがひどくなっており、いつ床が抜けてもおかしくないような状態であった為、床の張替え工事を行いました。(当初は 5 月に施工予定だったが、子どもの退居と居室調整の都合で 6 月の施行となった。改修工事自体は 2 日程度で終了しました。)

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

改修前に比べて綺麗で丈夫な床となり、凹みや軋みは無くなりました。当居室を利用する子どもからも、居室で過ごす際のストレスや不安が軽減されたので嬉しいと話しています。今回の改修のおかげで、子ども達にとって安心安全なホームでの生活を確保出来たと同時に、家庭に近い形での生活を継続する事が可能となり、自立に向けた社会性の獲得の場を維持する事が出来たと考えます。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

先述の通り、当ホームは老朽化が進んでおり、今後も改修が必要な箇所が出てくると思われますが、その際の資金確保が課題となります。生活する子ども達がよりよい環境で過ごせるよう、助成金を活用しながら環境整備を行っていく必要があると考えています。

7. 参考資料: プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、必ず、別途、ご提供ください。

